

## 横手の城下町とそれを見下ろす天守閣

横手公園の展望台からは、烏海山と横手の街並みを見渡すことができる。展望台は天守閣を模して作られているが、1965年に建てられた近代的な建物である。一方、公園は19世紀半ばまで存在した横手城の敷地を利用している。展望台は公園の北端に位置し、かつての横手城の二の丸跡にある。二の丸には、佐竹家に代わって城を管理する天守閣（城代）があった。今では屋敷も城もなくなってしまったが、かつて城を支配していた2つの力を持った家族の存在は、現在の横手を築いた大きな要因となっている。

## 小野寺氏の登場と城の成立

横手城は、小野寺氏が築城したものである。横手城は、横手城を築いた小野寺家が居城としていた。小野寺家は、12世紀後半に鎌倉幕府（1185-1333）への奉仕の報いとしてこの地域の支配権を得た。その後、小野寺家は秋田県南部にも領土を拡大し、さらにいくつかの城を築いた。横手城は、1550年頃、急峻な土塁で固められていた。この土塁が崩れないように二を植えて構造を整えていた。また、二は城攻めの際の非常食としても利用された。

小野寺家には、城の丘の下に住む家臣の家族がいた。そのため、家臣のニーズに合わせて商人や職人が横手に移り住み、城下町は徐々に拡大していった。

## 横手の支配権は佐竹氏に移る

17世紀に入り、日本は内戦に巻き込まれていた。小野寺家は勝者である徳川家に味方していたが、戦地から戻ってきた小野寺家の軍隊は、徳川家の味方が小野寺家から奪った近隣の領地を取り戻そうとした。この攻撃により、小野寺家は徳川家の敵となり、戦争が終わると、小野寺家は西日本に追放された。横手城とその周辺の領地は、他の秋田藩とともに、1602年に大名の佐竹義宣（1570-1633）に与えられた。

佐竹氏は、この地域の支配権を確立した後、横手川の流れを変え、家臣の家を増やすための工事を始めた。その結果、大名の家臣たちは横手城付近に屋敷を建てるための土地を与えられ、商人たちは川の対岸に家を建てたり、商売を始めた。たりした。

横手城は、幕末の戊辰戦争（1868年）で破壊されるまで、秋田藩の一部であった。城の遺構は、佐竹氏の初代と最後の大名を祀る秋田神社の建設に使用された。1902年には公園として整備され、現在も冬祭りなどのイベントが開催されている。